

令和7年度 病虫害防除技術情報 第6号

令和7年7月22日
大分県農林水産研究指導センター
農 業 研 究 部

水稻における紋枯病の防除について

紋枯病の発生は、7月15日に行った予察圃場（豊後大野市三重町）の調査では、過去10年間で最も早く発生が認められた令和5、6年よりも約1か月早い7月中旬に初発生が確認されました。また、7月中旬に行った巡回調査では、同時期で6年ぶりに早期水稻1圃場で「少」発生が確認されました。

本病は高温多湿条件で発生が助長されますが、1か月予報（7月17日・福岡管区气象台発表）によると、気温は高い確率が60%、降水量は多い確率が20%と予想されています。圃場での本病の発生状況に注意し、防除に努めましょう。

1 発生状況

1) 予察圃場調査結果（7月15日）

・発病株率

つや姫 : 0 % (平年 : 0%、前年 : 0%)

ヒノヒカリ : 4.0% (平年 : 0%、前年 : 0%)

なつほのか : 0 % (今年度より調査開始)

・平均病斑高率

つや姫 : 0 % (平年 : 0%、前年 : 0%)

ヒノヒカリ : 0.9% (平年 : 0%、前年 : 0%)

なつほのか : 0 % (今年度より調査開始)

2) 巡回調査結果（7月7～17日）

・早期水稻における発生状況

発生圃場率 : 10.0% (平年 : 12.4%、前年 : 0%)

平均発病度 : 0.1 (平年 : 0.2 、前年 : 0)

・普通期水稻における発生状況

発生圃場率 : 0% (平年 : 0.3%、前年 : 0%)

平均発病度 : 0 (平年 : 0.0 、前年 : 0)

2 防除上の注意事項

- 1) 令和7年度水稻作柄判定試験結果（大分県農林水産研究指導センター農業研究部 水田農業グループ）によると、水田農業グループ（宇佐市、平坦地）における本年の生育概況は「つや姫」、「ヒノヒカリ」及び「なつほのか」共に茎数が平年より多くなっています。株元の高湿多湿は本病の発生を助長するため、過繁茂にならないよう栽培管理を徹底し、中干しや間断灌水を行うとともに適切な肥培管理に努めましょう。
- 2) 本病の発生は圃場間差が大きい。昨年多発した圃場では本年も発生することが予想されることから、既に発生が確認される圃場では防除を行い、水平進展を抑制することに努めましょう。
- 3) 本病の垂直進展は直接の減収につながるため、出穂1～2週間前の防除適期には薬剤散布を実施しましょう。

病虫害対策チームホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/>



大分県 お米の栽培情報ポータルサイトー水稻 紋枯病（水田農業グループ）

<https://www.pref.oita.jp/soshiki/15084/mongare.html>